

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（166）」

2. 日時：平成29年6月2日 14時00分～18時30分

3. 場所：原子力規制庁 18階C会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、金子管理官補佐、岩永管理官補佐、皆川安全審査官、  
小林安全審査官、高嶋原子力規制専門員

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

堀田統括技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：福山執行役員 発電管理室室長（許認可担当）

（他15名）

5. 要旨

（1）日本原子力発電株式会社から、東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（格納容器破損防止対策）のうち、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）及び原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用（FCI）の対策について、これまでの審査会合及びヒアリングにおける指摘事項を踏まえて説明があった。原子力規制庁から、主に以下の点について指摘を行った。

- 前回のヒアリングでの指摘も踏まえて、原子炉圧力容器（RPV）の破損判断における「破損徴候パラメータ」及び「破損判断パラメータ」について、事象進展等を考慮し、判断に使用するパラメータの組合せの考え方を整理した資料を提示すること。また、「破損徴候パラメータ」の位置付けを整理した資料を提示すること。
- R PV破損判断における「破損徴候パラメータ」である「R PV下鏡部温度」について、判断に使用する計器の考え方を整理した資料を提示すること。
- R PV破損判断における「破損判断パラメータ」のうち「ペDESTAL水温」について、判断に使用する計器の考え方を整理した資料を提示すること。
- R PV破損の判断に要する時間（5分）の考え方及び当該判断時間に対する余裕時間の考え方を整理した資料を提示すること。
- ペDESTAL内に敷設するコリウムシールドの厚さの設定の考え方を整理した資料を提示すること。
- コリウムシールドの表面に敷設するライナの位置付けを整理した資料を提示すること。

- 事故発生からRPV破損までの間のペデスタル水位管理の考え方について、整理した資料を提示すること。
- ペデスタルへの水の流入経路となり得る配管の隔離弁について、閉止のタイミング及び閉止方法を整理した資料を提示すること。
- ペデスタル流入水の排水評価について、弁の圧損の設定に係る考え方を整理した資料を提示すること。
- ペデスタル水の排水経路であるスワンネックについて、異物による影響を考慮する期間を整理した資料を提示すること。
- デブリの拡がりに関する不確かさについて、各種実験で使用している床面の材質とコリウムシールドの組成との違いによる影響を整理した資料を提示すること。
- 解析コードにおけるコリウムシールドの模擬について、構造物に対する物性値の入力の考え方を整理した資料を提示すること。また、コリウムシールドに接しているコンクリートへの熱伝導の扱いについて整理した資料を提示すること。

(2) 日本原子力発電から、本日の指摘について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

- ・ 東海第二発電所 ペデスタルでの物理現象発生を想定した場合の格納容器の健全性について（審査会合における指摘事項の回答）
- ・ 東海第二発電所 ペデスタルでの物理現象発生を想定した場合の格納容器の健全性について（添付資料）